

第 46 回 幹 事 会

平成 19 年 11 月 22 日

日 本 学 術 会 議

日時 平成19年11月22日(木) 14:00～

議題

非公開議事項

1 委員会関係

- 提案1 選考委員会における分科会及び小分科会の設置及び委員の決定
- 提案2 科学者委員会運営要綱の一部改正及び分科会の委員の決定
- 提案3 国際委員会における分科会の委員の決定
- 提案4 分野別委員会における分科会、小委員会の設置及び委員の決定
- 提案5 「地球温暖化等、人間活動に起因する環境問題に関する検討委員会」の設置要綱の一部改正及び委員の決定
- 提案6 「水・食糧と持続可能な社会委員会」の設置要綱の一部改正及び委員の決定

前回幹事会以降の諸報告

審議事項

1 対外報告

- 提案7 「わが国食料生産における資源循環型畜産技術の開発と地域活性化」
- 提案8 「渇水対策・沙漠化防止に向けた人工降雨法の推進」

2 規則等の改正

- 提案9 日本学術会議会則の一部を改正する規則案
- 提案10 外国人会友(仮称)制度検討委員会設置要綱案

3 団体の指定

- 提案11 日本学術会議協力学術研究団体の指定
- 提案12 学術刊行物の審査

4 国際会議関係

- 提案13 平成19年度代表派遣(12～3月)

5 シンポジウム等

- 提案14 「東南アジアの民主主義と信頼」(シンポジウム)
- 提案15 「新しい環境共生都市像を求めて - 生命の多様性をも守り続ける新しい都市づくり - 」(シンポジウム)
- 提案16 「天文学・宇宙物理学の展望 - 長期計画の策定に向けて - 」(シンポジウム)
- 提案17 「科学技術リテラシー向上へのチャレンジ - 学校と社会の新しい連携 - 」
(シンポジウム)
- 提案18 「21世紀、科学とどう向き合っていくか(仮題)」(シンポジウム)
- 提案19 日本学術会議九州・沖縄地区会議公開学術講演会
- 提案20 「鉱物資源の持続可能性と資源問題への展望」(日本学術会議主催公開講演会)
- 提案21 「ゲノムから心まで：心の先端研究拠点への展望」(シンポジウム)
- 提案22 「宇宙と生命、そして人間を考える - 人類の未来のために」
(日本学術会議主催公開講演会)
- 提案23 「自然共生型流域圏の構築と都市・地域環境の再生に向けて」(シンポジウム)

6 後援

- 提案24 国内会議

その他

第 4 6 回 幹事会 (1 1 月 2 2 日) 出席者一覧

会 長	金 澤 一 郎
副会長	鈴 村 興太郎
副会長	土 居 範 久

第一部	部長	広 渡 清 吾
	副部長	佐 藤 学
	幹事	江 原 由美子
	幹事	小 林 良 彰

第二部	幹事	山 本 雅
	幹事	鷺 谷 いづみ

第三部	部長	海 部 宣 男
	副部長	小 林 敏 雄
	幹事	河 野 長
	幹事	大 垣 眞一郎

事務局	谷 口 局 長
-----	---------

諸 報 告 事 項

第 1 前回幹事会以降の経過報告

- | | |
|-------------|-------|
| 1 会長等出席行事 | P . 1 |
| 2 会長コメントの公表 | P . 1 |
| 3 審議付託等 | P . 1 |
| 4 委員会委員の辞任 | P . 2 |

第 2 各部・各委員会等報告

- | | |
|--------------------|-------|
| 1 幹事会附置委員会の開催とその議題 | P . 3 |
| 2 部会の開催とその議題 | P . 3 |
| 3 機能別委員会の開催とその議題 | P . 3 |
| 4 分野別委員会の開催とその議題 | P . 5 |
| 5 課題別委員会の開催とその議題 | P .12 |
| 6 サイエンスカフェの開催 | P .12 |
| 7 学術とジェンダー委員会報告 | P .14 |
| 8 総合科学技術会議報告 | P .24 |

第 3 慶弔

P .25

第 1 前回幹事会以降の経過報告

1 会長等出席行事

月 日	行 事 等	対 応 者
10 月 23 日 (火)	CAETS (国際工学アカデミー連合) 2007	金澤会長、谷口局長
10 月 31 日 (水)	新旧科学技術担当大臣との懇談会	金澤会長、谷口局長、佐藤管理課長
11 月 5 日 (月)	〔表敬訪問・意見交換〕 エルヌー・ボハール (駐日ハンガリー) 大使主催 昼食会	金澤会長、木方企画官
11 月 6 日 (火) ~ 10 日 (土)	World Science Forum (ブダペスト)	金澤会長、木方企画官

2 会長コメントの公表 (別紙参照)

IAC「持続可能なエネルギー：未来への指針 - "Lighting the Way: Toward a Sustainable Energy Future"」について

3 審議付託等

件 名	申 請 者	審議・付託先
第 17 回国際工学アカデミー連合 (CAETS) 大会シンポジウム「環境と持続的成長」の後援について	社団法人日本工学アカデミー会長	第三部
自由集会「へき地における看護を考える」の後援について	日本公衆衛生学会第 56 回学術集会会長	第二部
医療の質・安全学会第 2 回学術集会・国際シンポジウムの後援について	医療の質・安全学会第 2 回学術集会会長	第二部
日本看護系学会協議会 第 8 回シンポジウム：ICT を活用した看護イノベーションの後援について	日本看護系学会協議会会長	第二部
学術シンポジウム「高等教育における公財政支出の役割について」	2007 年度全国事務局長代表	第一部
第 28 回農業環境シンポジウム「温暖化によって何が起こり、どう対応できるのか」の後援について	独立行政法人農業環境技術研究所理事長	第二部 第三部
「スマトラ型巨大地震・津波被害の軽減策」国際シンポジウムの後援について	東京大学地震研究所・教授	第三部

「第 7 回日本社会福祉学会政策・理論フォーラム」の後援について	日本社会福祉学会会長	第一部
第 45 回日本伝熱シンポジウムの後援について	第 45 回伝熱シンポジウム実行委員長	第三部
日本地球惑星科学連合 2008 年大会の後援について	日本地球惑星科学連合代表	第三部
プラズマ理工学国際会議 2008 (ICPP2008) の後援について	プラズマ理工学国際会議 2008 (ICPP2008) 組織委員長	第三部
日本学術会議協力学術研究団体の指定について	日本補完代替医療学会 アジア系アメリカ文学研究会 地域研究コンソーシアム 日本薬剤疫学会 日本余暇学会 生き物文化誌学会 新潟医療福祉学会 日本教授学習心理学会 臨床教科教育学会 日本中性子科学会 日本舌側矯正学術会 (社)国際環境研究協会	科学者委員会

4 委員会委員の辞任

国際委員会持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議 2008 分科会

黒崎 卓 (平成 19 年 10 月 31 日付)

国際委員会日英学術交流分科会委員会

岸 輝雄 (平成 19 年 11 月 14 日付)

唐木 英明 (同上)

橋本 和仁 (同上)

市原 学 (同上)

社会学委員会「社会理論」分科会

厚東 洋輔 (平成 19 年 10 月 19 日付)

地域研究委員会 人類学分科会

庄垣内 正弘 (平成 19 年 11 月 22 日付)

法学委員会「不平等・格差社会とセーフティ・ネット」分科会

二木 立 (平成 19 年 11 月 18 日付)

政治学委員会国際政治分科会

酒井 啓子 (平成 19 年 11 月 22 日付)

地球惑星科学委員会国際対応分科会水文地質学小委員会

西垣 誠 (平成 19 年 11 月 1 日付)

第2 各部・各委員会報告

1 幹事会附置委員会の開催とその議題

- (1) 憲章起草委員会 (第 8 回) (1 1 月 1 5 日)
 会員、連携会員への送付案について
 今後のステップについて

2 部会の開催とその議題

- (1) 第三部 拡大役員会 (第 1 2 回) (1 1 月 1 3 日)
委員会・分科会からの報告・意思の表出の取扱いについて
会員・連携会員の改選について その他の事項

3 機能別委員会の開催とその議題

- (1) 選考委員会(第19回)(10月15日)
選考の透明性について
選考の公正性について

- (2) 選考委員会(第20回)(11月12日)
分科会及び小分科会の設置等について
「再任」について
補欠の会員選考について
その他

- (3) 科学者委員会 (第 3 0 回) 1 1 月 5 日 (月)
- 日本学術会議協力学術研究団体の指定
- 日本郵政公社 (当時) による学術刊行物の審査協力
- 科学者委員会運営要綱の一部改正
- その他

- (4) 科学者委員会(第31回) 11月8日(木)メールによる持ち回り開催
日本学術会議九州・沖縄地区会議公開学術講演会の開催について

- (5) 科学者委員会広報分科会 (第 2 1 回) (1 1 月 1 2 日)
 “ “ 学術の動向」編集委員会 (第 2 0 回) (“ “)
 前回 (9 / 10) の議事要旨

今後の編集方針

- ・表紙デザイン（人物掲載）（案）
- ・原稿依頼・校了等進捗状況
- ・4月号以降の特集
- ・各コーナー執筆者の推薦

日本学術会議英文パンフレットについて

その他（今後の会議日程の確認等）

（6）男女共同参画分科会（第11回）10月10日（水）

対外報告書の公表について（平成19年7月26日）

男女共同参画に関するアンケート調査について

最終報告に向けた取り組み（今後の日程等）について

男女共同参画分科会の構成員について

その他

（7）科学と社会委員会（第15回）（10月12日）

対外発出文書の名称について 「水・食糧と持続可能な社会委員会」及び
「医療のイノベーション検討委員会」の担当委員について 「誕生シリーズ」
について その他

（8）科学と社会委員会 科学力増進分科会（第14回）（10月12日）

科学技術リテラシー小委員会の活動報告 シンポジウム「科学技術
リテラシー向上へのチャレンジ」の共催について サイエンスカフェについて
サイエンスアゴラについて 学術の動向への投稿について その他

（9）国際委員会（第18回）（10月12日）

H19 代表追加派遣

持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議 2007

AASSREC 隔年総会

国際戦略立案分科会

H22 共同主催国際会議募集

H20 代表派遣推薦募集

IAP 執行委員会

その他

（10）G8 学術会議分科会（第6回）（10月8日・9日）

G8 学術会議について

（11）G8 学術会議分科会（第7回）（11月14日）

会議概要

共同声明テーマ
日本学術会議における取組体制
今後のスケジュール
その他

(12) **国際対応戦略立案分科会** (第4回)(10月12日)

加入国際学術団体ヒアリング
その他

(13) **国際対応戦略立案分科会** (第5回)(11月19日)

加入国際学術団体ヒアリング
その他

(14) **AASSREC 等分科会** (第20期・第15回 平成19年10月29日)

第17回AASSREC総会(2007年9月27日～9月30日、名古屋)について報告
IFSSO総会(2007年10月11日～10月14日、インドネシア)について報告
その他

4 分野別委員会の開催とその議題

第一部担当

(1) **心理学・教育学委員会** (第6回)(10月10日)

分科会報告について その他

(2) **哲学委員会** (第7回)(10月10日)

平成19年度シンポジウムの開催について FISP運営委員の推薦について FISP世界大会への参加について 日本学術会議会員及び連携会員の推薦について 各分科会からの報告 その他

(3) **史学委員会** (第8回)(10月11日)

会員、連携会員の推薦について 各分科会の活動の総括と今期中の目標について その他

(4) **経済学委員会 人口変動と経済分科会** (第3回)(10月12日)

シンポジウム・プログラム(案)についての協議 シンポジウムの日程についての協議 その他

(5) **言語・文学委員会 古典文化と言語分科会** (第6回)(10月12日)

話題提供: 花登正宏委員「国語としての中国語」

話題提供: 長島弘明委員「日本語の将来のための基本計画 - 文科省に要望すべき人文科学への財政的支援」(仮題)

- シンポジウム「日本語の将来に向けて」を今後どう生かすか その他
- (6) 法学委員会 ファミリー・バイオレンス分科会 (第 5 回)(1 0 月 1 2 日)
委員からの報告 : 「角田委員より「DV防止法の運用と動向と課題」に
ついての報告 その他
- (7) 心理学・教育学委員会 健康・医療と心理学分科会 (第 2 回)(1 0 月 1 5 日)
分科会の活動について 「医療心理師」資格化へ向けての方策 その他
- (8) 史学委員会 博物館・美術館等の組織運営に関する分科会
(第 2 回)(1 0 月 1 7 日)
日本学術会議声明「博物館の危機をのりこえるために」について
分科会の今後の課題について その他
- (9) 社会学委員会 社会理論分科会 (第 4 回)(1 0 月 1 9 日)
グローバリゼーションが引き起こす社会問題及びその社会理論への
インパクトに関する問題提起 各問題提起を踏まえての質疑
シンポジウム開催について その他
- (10) 史学委員会 歴史認識・歴史教育に関する分科会 (第 5 回)(1 0 月 2 0 日)
同日の日本歴史学協会と共催のシンポジウムについて、事前の打ち合わせ
1 1 月 1 6 日のアジアに関する分科会との合同分科会について その他
- (11) 心理学・教育学委員会・史学委員会・地域研究委員会合同
高校地理歴史科教育に関する分科会 (第 4 回)(1 0 月 2 1 日)
高校地理歴史科教育改革案の検討 その他
- (12) 言語・文学委員会 (第 1 0 回)(1 0 月 2 6 日)
総会・第一部会での議論について 言語・文学委員会の「対外報告」の
作成について 各分科会の現在までの活動と、「対外報告」の準備について
学会連合について
- (13) 地域研究委員会・環境学委員会・地球惑星科学委員会合同 I H D P 分科会
(第 7 回)(1 0 月 2 7 日)
AASSREC の報告と意見交換 今年度の活動 次年度 (2 0 年 9 月 まで) の活動
次期の委員会構成等に関する意見交換 その他 (次回日時等)
- (14) 心理学・教育学委員会 法と心理学分科会 (第 2 回)(1 0 月 2 8 日)
司法・矯正領域における人材養成と心理学 諸外国における司法・矯正に
かわる心理技術者の養成 : 英国を例として 2 0 0 9 年日本認知心理学会

大会におけるシンポジウム（日本学術会議「法と心理学」分科会・認知心理学会・法と心理学会共催） その他

（15）哲学委員会 哲学・倫理・宗教教育分科会（第3回）（10月28日）
各委員からの報告とその検討 その他

（16）法学委員会 「IT社会と法」分科会（第3回）（10月31日）
シンポジウムの成果を踏まえて今後の活動計画について その他

（17）史学委員会 アジア研究・対アジア関係に関する分科会
（第4回）（第5回）（11月16日）
第4回： 「大規模プロジェクトとアジア史の教育研究」に関する問題提起と
討議 その他
第5回： 三谷 博委員の報告 その他

（18）史学委員会 歴史認識・歴史教育に関する分科会（第6回）（11月16日）
三谷 博委員の報告 その他

（19）法学委員会 「不平等・格差社会とセーフティ・ネット」分科会
（第6回）（11月17日）
不平等・格差社会とセーフティ・ネットについて その他

（20）社会学委員会 社会調査分科会（第3回）（11月19日）
社会調査のインフラストラクチャーの現状 その他

第二部担当

（1）基礎生物学委員会（第3回）（10月10日）
応用生物学委員会（第3回）（10月10日） 合同委員会
基礎生物学委員会及び応用生物学委員会の下の今後の分科会活動について
その他

（2）臨床医学委員会 感覚器分科会（第7回）（10月16日）
感覚器医学ロードマップ 感覚器サミット 来年度の市民公開講座
その他

（3）健康・生活科学委員会 生活科学分科会（第9回）（10月17日）
生活科学分科会の今後の活動計画について 生活科学系コンソーシアムに
ついて その他

（4）基礎生物学委員会・応用生物学委員会・地球惑星科学委員会合同

自然史・古生物学分科会（第6回）（10月17日）
博物館の对外報告書について シンポジウムについて 今後の活動について その他

（5）基礎生物学委員会・応用生物学委員会合同 生物科学分科会
（第4回）（10月18日）
シンポジウムについて 今後の活動について その他

（6）臨床医学委員会 消化器分科会（第2回）（10月20日）
今後の活動方針について その他

（7）臨床医学委員会 免疫・感染症分科会（第4回）（10月22日）
我が国における臨床免疫学を推進させるための方策について その他

（8）臨床医学委員会 障害者との共生分科会（第5回）（10月22日）
各小委員会からの報告について 報告書の取りまとめ手順について
その他

（9）臨床医学委員会・健康・生活科学委員会合同 パブリックヘルス科学分科会
（第5回）（10月24日）
個人情報問題と政府統計の利活用フォーラムについて（報告書作成の具体化案）
今後の活動内容（フォーラム等開催日程や案を提示いただく）
1）アジア諸国との公衆衛生活動協力の推進について
2）公衆衛生教育、特に専門大学院問題、その課題について
3）健康食品問題シンポジウム
4）パブリックヘルス科学に関係する学協会の連携組織化について（呼びかけ先
などの具体化案）
5）その他（次回分科会等について）

（10）農学基礎委員会 水問題分科会（第7回）（10月29日）
シンポジウムについて 今後の分科会活動について その他

（11）基礎生物学委員会・応用生物学委員会・農学基礎委員会合同
植物科学分科会（第4回）（10月30日）
各植物関連学会からの要望について 对外報告について その他

（12）健康・生活科学委員会 子どもの健康分科会（第9回）（10月31日）
分科会としての提言について その他

（13）農学基礎委員会 農業経済学分科会（第7回）（10月31日）
東アジア共同体と食料・農業・農村についてのヒアリング その他

- (14) **農学基礎委員会 農業情報システム学分会** (第6回)(11月2日)
公開シンポジウム「東アジア地域の食の安全確保の現状と情報技術の応用」
について 対外報告、ヒアリングなどについて その他
- (15) **健康・生活科学委員会 高齢者の健康分会** (第5回)(11月7日)
シンポジウムについて その他
- (16) **生産農学委員会 水産学分会** (第2回)(11月14日)
日本学術会議の活動状況等に関する年次報告(生産農学委員会)について
農業情報システム分会主催公開シンポジウムの共催について
「東アジア地域の食の流通確保の現状と情報技術の応用(仮)」
各ワーキンググループの活動について 今後の活動について その他
- (17) **健康・生活科学委員会 子どもの健康分会** (第10回)(11月20日)
対外報告について その他
- (18) **生産農学委員会 畜産学分会** (第6回)(11月22日)
今後の畜産学分会の活動について(対外報告・シンポジウムの開催)
その他

第三部担当

- (1) **機械工学委員会 生産科学分会** (第5回)(10月11日)
生産科学学術で検討すべき課題について 機械工学関連の学協会との
連携について その他
- (2) **土木工学・建築学委員会 国土・社会と自然災害分会**
(第1回)(10月12日)
経過報告 今後の進め方 組織構成について その他
- (3) **環境学委員会 環境思想・環境教育分会** (第3回)(10月16日)
運営委員会報告
話題提供:「持続可能な国土利用とその担い手」小林重敬
「環境倫理の関係論的アプローチと環境教育～人間と自然との関係性の構造
から～」鬼頭秀一 次回シンポジウムへ向けて:小澤委員長による「政府
への提言案」の提示と委員による討議 その他
- (4) **数理科学委員会 数理統計学分会** (第3回)(10月20日)
政府統計・社会統計情報基盤整備分会との連携について 学術会議の
会員推薦について その他

(5) 情報学委員会 国際サイエンスデータ分科会 (第 2 回)(1 0 月 2 2 日)
日米ワークショップについて 特任連携会員について CODATA
対応について その他

(6) 基礎生物学委員会・応用生物学委員会・物理学委員会・地球惑星科学委員会・
化学委員会・総合工学委員会合同 基礎科学の大型計画のあり方と推進方策
検討分科会 (第 7 回)(1 0 月 2 4 日)
今後の方針 分科会報告のとりまとめについて 関係省庁との意見
交換会

(7) 電気電子工学委員会 URSI 分科会 (第 5 回)(1 0 月 2 4 日)
URSI 各分野の活動動向について URSI 分科会ホームページ、
メーリングリストについて 第 2 9 回 URSI 総会への対応 アジア・
太平洋電波科学会議 (AP-RASC) の日本誘致について 各小委員会の活動報告
その他

(8) 化学委員会 大学院教育高度化検討分科会 拡大役員会
(第 1 回)(1 0 月 2 4 日)
大学院教育高度化検討分科会アンケート取り纏めについて その他

(9) 環境学委員会・数理科学委員会・物理学委員会・地球惑星科学委員会・
情報学委員会・化学委員会・総合工学委員会・機械工学委員会・
電気電子工学委員会・土木工学・建築学委員会・材料工学委員会合同
若手・人材育成問題検討分科会 (第 4 回)(1 0 月 2 4 日)
話題提供
1) 人材育成に関する最近の施策の状況について
2) 人材関係のデータについて
3) 大学院改革の取り組みについて
提言のまとめ方について その他

(10) 化学委員会 化学企画分科会 (第 5 回)(1 0 月 2 4 日)
大学院教育高度化検討分科会アンケート取り纏めについて 日本学術会議
会員及び連携会員候補者推薦について その他

(11) 地球惑星科学委員会 地球惑星科学推進分科会 役員会
(第 2 回)(1 0 月 3 0 日)
第 3 回地球惑星科学推進分科会に向けた審議課題の整理 3 月に開催予定
のシンポジウムの企画案について その他

(12) 地球惑星科学委員会 国際対応分科会 (第 4 回)(1 1 月 1 日)

今後の募集等について 活動状況及び報告体制について 国際対応の
ための組織について その他

(13) **機械工学委員会** (第4回)(11月1日)

機械工学委員会 活動報告 機械工学委員会所属あるいは関連の分科会活動
報告 会員・連携会員の推薦について 新たな分科会について その他

(14) **化学委員会 化学企画分科会** (第6回)(11月1日)

大学院教育高度化検討分科会アンケート取り纏め結果報告

(15) **地球惑星科学委員会 I G U分科会** (第4回)(11月5日)

I G Uの動静について I A U地域会議の日本への誘致について
地理オリンピックについて I Y P Eについて その他

(16) **情報学委員会 セキュリティ・ディペンダビリティ分科会**

(第3回)(11月5日)

企業の情報事故対策について、 对外報告について、 工学システムに関する安心・
安全・リスク検討分科会との連携について
その他

(17) **地球惑星科学委員会 地球・人間圏分科会** (第10回)(11月5日)

各ワーキンググループの報告と全体検討会 その他 ワーキング
グループ別検討会

(18) **総合工学委員会 未来社会と応用物理分科会** (第3回)(11月5日)

各WGの取り組みの経過報告 各WGの取り組みに関する討議 その他

(19) **心理学・教育学委員会・臨床医学委員会・環境学委員会・土木工学・建築学**

委員会合同 子どもの成育環境分科会 (第1回)(11月9日)

分科会の目標 分科会の検討項目 今後のスケジュールの検討
その他

(20) **土木工学・建築学委員会 建設と社会分科会** (第9回)(11月13日)

小委員会報告 話題提供 その他

(21) **土木工学・建築学委員会 建設と社会分科会 民生とエネルギー小委員会**

(第9回)(11月13日)

話題提供 对外報告の英訳について その他

(22) 土木工学・建築学委員会 建設と社会分科会 社会的共通資産研究小委員会
(第7回)(11月13日)

学術の動向への掲載について その他

(23) 地球惑星科学委員会 (第17回)(11月14日)

学術会議総会・第三部会報告 各分科会活動報告 地球惑星科学推進
分科会の開催について その他

(24) 化学委員会・総合工学委員会・材料工学委員会合同 化学工学分科会
(第3回)(11月16日)

話題提供

1) 「環境を機軸とした地域産業イノベーション - 愛知県を例として - 」

愛知県環境部長 林 清比古

2) イノベーションに対する工学の有り方について

化学工学分科会委員長 架谷 昌信

その他

5 課題別委員会の開催とその議題

(1) 水・食糧と持続可能な社会委員会 (第1回)(10月26日)

委員長、副委員長及び幹事の選出について 今後の進め方について
その他

(2) 地球温暖化等、人間活動に起因する地球環境問題に関する検討委員会
(第2回)(11月5日)

年次計画 委員からの説明 1) WG1からの説明 2) WG2からの説明
3) WG3からの説明 シンポジウムについて その他

(3) 生殖補助医療の在り方検討委員会 (第10回)(11月6日)

配偶子・胚の提供の現状について 公開講演会について
報告書の構成案とその検討 その他

6 サイエンスカフェの開催

10月26日(金) 18:00～19:40

主 催：化学委員会、東北大学

場 所：仙台市科学館（仙台市青葉区）

テーマ：東北大学サイエンスカフェ「新素材・新機能をつくり出す化学のフロンティア」

講 師：榎 敏明氏（東京工業大学教授）

宮下 徳治氏（東北大学教授）

11月16日（金）18：30～20：30

主 催：科学と社会委員会科学力増進分科会、富山房インターナショナル

場 所：サロン・ド・富山房Folio（千代田区神田神保町）

テーマ：サイエンスカフェ「美しさの種を育てて コスメを科学する」

講 師：田中信治氏、橋爪論氏（日本油脂（株））

11月29日（木）18：00～20：30

主 催：日本学術会議、北海道教育大学、旭川市教育委員会

場 所：旭川市科学館「サイパル」（旭川市宮前通東）

テーマ：サイエンスカフェ in サイパル「地理から地球環境を考える」

講 師：熊本洋太氏（連携会員、専修大学文学部教授）

氷見山幸夫氏（連携会員、北海道教育大学教授）

12月1日（土）14：00～

主 催：化学委員会、放送大学岡山学習センター

場 所：放送大学岡山学習センター（岡山市津島中）

テーマ：サイエンスカフェ「化学と薬：新薬開発に携わった化学者の物語」

講 師：杉本八郎氏（京都大学大学院薬学研究科客員教授、

元エーザイ株式会社理事・創薬研究所所長）

12月21日（金）18：30～20：30

主 催：科学と社会委員会科学力増進分科会、富山房インターナショナル

場 所：サロン・ド・富山房Folio（千代田区神田神保町）

テーマ：サイエンスカフェ「遺伝カウンセリングコースをつくる」

講 師：滝澤公子氏（お茶の水女子大学）

1月18日（金）18：30～20：30

主 催：科学と社会委員会科学力増進分科会、富山房インターナショナル

場 所：サロン・ド・富山房Folio（千代田区神田神保町）

テーマ：サイエンスカフェ「哺乳動物リボソームRNA遺伝子は染色体の上をどのように動いているか」

講 師：神田尚俊氏（東京農工大学）

7 学術とジェンダー委員会報告

学術とジェンダー委員会報告 『提言：ジェンダー視点が拓く学術と社会の未来』 インパクト・レポート

1 提言内容

(1) 科学者コミュニティに向けて

ジェンダー視点があらゆる学術研究にとって必要かつ有効であることを認識し、各学問分野にジェンダー視点を取り入れること
学術における男女共同参画施策などに、ジェンダー研究及び教育の成果を十分に活用すること

(2) 行政及び教育研究機関に向けて

ジェンダー視点到立った学術研究及び教育を支援・育成すること
ジェンダー概念の重要性を十分に認識し、その使用を促進すること

(3) マスコミ・企業・一般市民に向けて

情報の発信及び受信において、ジェンダーに敏感な視点を持つこと
経済活動及び社会生活において、ジェンダーに敏感な視点を持つこと
以上を提言し、男女共同参画社会の実現に寄与することを通じて、国民の健康福祉の向上、ひいては世界の平和と幸福の追求に資することを期待する。

2 提言年月日

平成18年11月22日

3 社会的インパクト

(1) 政策

男女共同参画政策は、各政策領域で展開されている。またその政策策定に関して、ジェンダー概念を使用した研究やジェンダー研究の成果も、取り入れられている。一時、政策においてジェンダー概念を使用するかどうかの是非が議論されたこともあったが、現在は、社会的性別として定着している。

(2) 学協会・研究教育機関・市民社会等の反応

ジェンダー学連絡協議会のMLに報告書の表題及び概略を流し、各学協会から情報が会員にいきわたるようにした。2回の講演会・シンポジウムなどの情報と共に、会員個人に利用された。

また、日本学術会議社会学委員会ジェンダー学分科会において、本報告の報告会が開催された。

東北大学 21 世紀 C O E プログラムニュースに本報告書が出たことが掲載された。

その他、個別には以下のように、研究会や市民活動において利用されている。

2007 年 3 月 10 日、「第 52 回 科学技術社会論研究会」(事務局 白鳥紀一)において「科学技術とジェンダー」が主題となり、江原由美子が本報告書を基に、各分野における「学術研究とジェンダー」の現況について、報告した。なお、この研究会は、本年においては、「女は機械に弱い? - 神話と現実」という主題で研究会を持つ予定であるという。

2007 年 3 月 4 日、北京 J A C 主催講演会にて、本報告書を基礎として、「ジェンダー概念の有効性と政策」を主題とする報告会が開催され、全国から数十人の関心を持つ市民が参加して、討論を行なった。委員会からは、江原由美子が講演者として登壇した。

また 2007 年 7 月 13 日には、北九州市男女共同参画センタームーブで、市民企画事業として『どうするジェンダー問題!』が開催され、江原が、学術会議の報告書を基に、学術世界におけるジェンダー研究の進展から男女共同参画政策に提案することを主題とする講演を行なった。市民 100 名以上が参加した。特に、性差医療の紹介や生物学における諸研究の動向には非常に強い関心が寄せられ、今後の施策を考える上で非常に有効な情報であるという評価を会場から頂いた。今後ともこうした有効な情報が、学术界だけでなく、広く市民にも広まるような活動をして欲しいという要望を得た。

2007 年 10 月 6 日 平成 19 年度 文部科学省科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成」委託事業・早稲田大学『研究者養成のための男女平等プラン』: 第 3 回シンポジウム『頑張れ若手研究者!! ~ 早稲田モデルの構築をめざして』において、大沢真理が本報告書に基づき、「高等教育・研究とジェンダーの視点」について報告。早稲田大学内外の若手研究者数十名、および中山弘子新宿区長が参加し、熱心な討議も行われた。

4 メディア

- ・ 2006 年 12 月 8 日『信濃毎日』「ジェンダー論活況」
- ・ 2006 年 12 月 13 日『四国新聞』文化欄 「ジェンダー論の当たり年」
- ・ 2006 年 12 月 14 日『東奥日報』評論「ジェンダー論当たり年」
- ・ 2006 年 12 月 21 日『京都新聞』「ジェンダー論刊行ラッシュ」
- ・ 2006 年 12 月 23 日『山梨日日新聞』「ジェンダー論当たり年に」

(いずれも 当報告書への言及有・上野千鶴子委員執筆)

- ・雑誌『学術の動向』2006年11月号(日本学術協力財団発行)
- ・Gender, Technology and Development, vol.11, no.3, New Delhi: SAGA Publications, November 2007 (ジェンダーと開発分野のレフリー制の国際的な専門誌)に、本報告書が言及されている。
- ・東北大学 21 世紀 COE プログラムジェンダー法・政策研究叢書 10 巻として、本報告書を基に『ジェンダーの基礎理論と法』(辻村みよ子編)が出されている。
- ・学術叢書 14『性差とは何かージェンダー研究と生物学の対話』として近刊の予定。

5 考察と自己点検

なるべく多くの方々に読んでもらえるよう努力したが、力不足の側面もあったと思う。

内容的には、この種の本が少なすぎることもあり、「大変参考になった」という意見が多く寄せられた。ジェンダー研究という学際的な研究領域にとっては、多くの分野の方々が協力できる学術会議という場は、非常に重要だと感得した。

インパクト・レポート作成責任者

学術とジェンダー委員会委員長 江原 由美子

「行き過ぎ」「不適切」…逆風のなかで

今年、安倍政権が成立した
せいで、「ジェンダーフリー」
のみならず「ジェンダー」ま
でが政治的争点となった奇妙
な一年だった。

一月には、東京都国分寺市
の人権講座の講師に上野が候
補となったことに、東京都が
「ジェンダーフリー」という言
葉を使うかも」と介入して、
企画が中止になったことが発
覚、広範な抗議の運動が起き
た。

三月には千葉県議会で男女
共同参画センター設置条例が
否決、四月からの事業中断に
追い込まれた。五月には福井
県的生活学習館でジェンダー

ジェンダー論 活況

——上野千鶴子



【つえの・ちづこ】東大大学
院人文社会科学系研究科教授(社
会学)。1948年、富山県
生まれ。京都精華大助教授な
どを経て現職。著書に「近代
家族の成立と終焉」「ナショ
ナリズムとジェンダー」など。

関連の書籍百五十三冊が「過
激で不適切」という理由で撤
下されたことが判明、た
だちに関係者が抗議をして本
はもとの書架にもどった。福
井県は迷走のあげく、「反省」
するに至った。十一月には千
葉県市川市で男女平等基本条
例の改廃の動きがあり、現在
もせめぎあいが続いている。

強まった連帯 思わぬ収穫

去されていたことが判明、た
だちに関係者が抗議をして本
はもとの書架にもどった。福
井県は迷走のあげく、「反省」
するに至った。十一月には千
葉県市川市で男女平等基本条
例の改廃の動きがあり、現在
もせめぎあいが続いている。

去されていたことが判明、た
だちに関係者が抗議をして本
はもとの書架にもどった。福
井県は迷走のあげく、「反省」
するに至った。十一月には千
葉県市川市で男女平等基本条
例の改廃の動きがあり、現在
もせめぎあいが続いている。

が強まったの思いがけない
成果。そのなかから収穫と言
えるものをいくつか。

若桑みどりさんたち(皆川
満寿美・加藤秀一・赤石千衣
子編著)の「『ジェンダー』
の危機を超える!」(青弓社)
は、国分寺市事件をきっかけ
に研究者・教育・行政関係者

ラッシュユ派の分析をもとに、
弱点を衝(つ)く。

加藤秀一さんの「ジェンダ
ー入門」(朝日新聞社)は「知
らないと恥ずかしい」ジェン
ダー論の基本から丁寧にい
説く。批判するなら勉強して
から出直してきてもらいた
い。そのためにはつてつけ
の入門書だ。

沼崎一郎さんの「『ジェン
ダー論の教え方ガイド』(フ
エミックス)は、性暴力被害
者予備軍こと女子大生への愛
にあふれた実践ガイドだ。避
妊なきセックスは性暴力だ、
とか、男性学が生んださまざ
まな卓見に満ちている。

「ジェンダー」は国際的に
確立した学術用語、これを不

使用にすれば日本は世界の笑
いものになると、日本学術会
議でも会員のあいだに危機感
が拡(ひろ)がり、学術とジ
ェンダー委員会の対外報告書
「提言…ジェンダー視点が
拓く学術と社会の未来」(「
http://www.sci.go.
jp/ja/info/kohyo/pdf/
kohyo-20-t29.pdf」
が)が出た。コンパクトだ
が密度の濃い、第一線の研究
者による学術的なアプローチ
の成果。

あとになってふりかえれ
ば、バックラッシュのおかげ
で二〇〇六年はジェンダー論
刊行の当たり年だった、と言
えるだろう。予期せぬ効果と
いふべきか。

文化

文化・生活

今年は安倍政権が成立したせいで「ジェンターフリー」のみなす「ジェンター」までが政治的争点となった奇妙な一年だった。

□迷走■

一月には、東京都国分寺市の人権講座の講師に上野が候補となったこと、に、東京都「ジェンターフリー」という言葉を使

とが判明、だちに関係者が抗議をして本はもと書架にもどった。福井県は迷走のおびく、「反省」するに至った。十一月には千葉県市川市で男女平等基本条例の改廃の動きがあり、現在もめぐまいが続いている。

ふれるシンポジウムの記録。

宮台真司さん、上野の「バックラッシュ」(双風社)の執筆者は若手のネットエッセイ、アロガー(アログの書き手)の世代が中心。バックラッシュ派の分析をもとに、弱点を衝く。

本は世界の笑いものになる、日本学術会議でも会員のあいだに危機感が拡がり、学術とジェンター委員会の対外報告書「提言:ジェンター視点」が拓く学術と社会の未来 (http://www.scj.go.jp/JA/info/kohyo/pdf/kohyo_20_t29.pdf) が出た。コンパクトだが密度の濃い、第

ジェンター論の当たり年

評論

上野 千鶴子

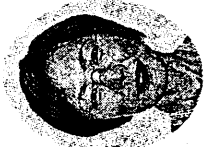
が、こんなに女が動きにくい、出産にくい世の中が続いているのに、後戻りして戻らなくては困る。

□収獲■

バックラッシュのおかげで、ジェンター関係者

「ジェンター論の当たり年」基本からいねいに説く。批判するなら勉強してから出直してきてもらいたい。そのためにはつてつけの入門書だ。

沼崎一郎さんの「ジェンター論」の教え方



■このへん・ちこ

1948年富山県生まれ。京大大学院博士課程修了。社会学専攻。京都精華大学助教授などを経て東大教授。著書に「近代家族の成立と終焉」など。

バックラッシュで連帯

うかも」と介入して、企画が中止になったことが、発覚、広範な抗議の運動が起きた。

三月には千葉県議会男女共同参画センター設置条例が否決、四月からの事業中断に追い込まれた。五月には福井県の生涯学習館でジェンター関連の書籍百五十三冊が「過激で不適切」という理由で撤去されていたこ

の連帯が強まったのが思いがけない成果。そのなかから収獲と言えるものをいくつか。

若菜みどりさんたち(皆川満寿美・加藤秀一・赤石千衣子編著)の「ジェンター」の危機を越える! (青弓社)

は、国分寺市事件をきっかけに研究者、教育、行政関係者、アクティビストが一室に集った熱気あ

イド」(フェミニズム)は、性暴力被害者準備軍こと女子大生への愛にあふれた実践ガイドだ。「避妊なきセックス」は性暴力だ、とか、男性学が生んださまざまな草紙に満ちている。

□効果■

「ジェンター」は国際的に確立した学術用語、これを不使用にすれば日

一線の研究者による学際的なアプローチの成果。あとになってみれば、バックラッシュのおかげで二〇〇六年はジェンター論刊行の当り年だったと言えるだろう。予期せぬ効果といえよう。(東大教授)

評論

中断に追い込まれた。五月には福井県の生活学習館でジェンダー関連の書籍目録十三冊が「過激で不適切」という理由で撤去されていたことが判明、ただちに関係者が抗議をして本はもとに戻った。福井県は迷走のあげく、「反省」するに至った。十一月には千葉県市川市で男女平等基

関係者の運常強まる

いずれも「行き過ぎたシ

ジェンダーフリーを是正するため」というバックラッシュ(ゆりもどし)だが、こんなになが動きにくい、出産しにくい世の中が続いているのに、後戻りしてものは困る。バックラッシュのおかげで、ジェンダー関係者の運

「ゆりもどし」が 予期せぬ効果に

ジェンダー論 当たり年

上野千鶴子

くさの・ちこ 1948年富山県生まれ。京大文学部博士課程修了。社会専攻。京都精華大助教授などを経て東大教授。著書に「近代家族の成立と終焉」など。



あれる。このプログラムの記録。宮島真司さん、上野の「バックラッシュ」(双風社)の執筆者は若手のネットユーザー(プログラムの書き手)の世代が中心。バックラッシュ派の分

帯が強まったのが思いがけない成果。そのなかから収種と言えものをいくつか。男性学が生んだ発見。若森みどりさんたち(皆川満寿美・加藤秀一・赤石千衣子編著)の「ジェンダー」の危機を越える(吉田社)は、国分寺市事件をきっかけに研究者、教育・行政関係者、アクティビストが一堂に会した熱気あふる入門書だ。



ジェンダーをめぐる出版や研究が相次いだ

沼崎 郎さんの「ジェンダー論の教養方々」(フェミックス)は、性暴力被害者支援と女子大生への愛にあふれた実践ガイドだ。「避妊なきセックス」は性暴力だとか、男性学が生んださまざまな卓見に満ちている。

「ジェンダー」は国際的に確立した学術用語、これを使用すれば日本は世界の笑いものになる。日本学術会議でも会員のあいだに危機感が広がり、学術とジェンダー委員会の対外報告書「提言：ジェンダー視点が拓く学術と社会の未来」(<http://www.scj.go.jp/JA/info/kohyo/pdf/kohyo-20-t29.pdf>)が出た。コンパクトだが密度の濃い、第一線の研究者による学際的なアプローチの成果。

あとになってみれば、バックラッシュのおかげで二〇〇六年はジェンダー論刊行の当たり年だったと言えるだろう。予期せぬ効果といつべきか。

文化

京都新聞 2006.12.21.

ジェンダー論 刊行ラッシュ



ジェンダーをめぐる出版や研究が相次いだ

今年は安倍政権が成立した
せいで「ジェンダーフリー」
のみならず「ジェンダー」ま
でが政治的争点となった奇妙
な一年だった。

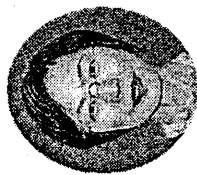
◆
一月には、東京都国分寺市
の人権講座の講師に上野が候
補となったことに、東京都が
「ジェンダーフリー」という言
葉を使つかも」と介入して、
企画が中止になったことが発
覚、広範な抗議の運動が起き
た。

三月には千葉県議会でも男女
共同参画センター設置条例が
否決、四月からの事業中断に
追い込まれた。五月には福井
県の生涯学習館でジェンダー
関連の書籍百五十三冊が「過
激で不適切」という理由で撤
去されていたことが判明、た
だちに関係者が抗議をして本
はもとの書架にもどった。福
井県は迷走のあけく、「反省」
するに至った。十一月には千
葉県市川市で男女平等基本
条例の改廃の動きがあり、
現在もせめぎ合いが続いてい
る。

いずれも「行き過ぎたジェ
ンダーフリー」を是正するた
めというバックラッシュ(ゆ
りもどし)だが、こんなに女
が働きにくい、出産にくい
世の中が続いているのに、後
戻りしてもらっては困る。

◆
バックラッシュのおかげ
で、ジェンダー関係者の連帯
が強まったのが思いがけない
成果。そのなかから収穫と言
えるものをいくつか。

若桑みどりさんたち(皆川
満寿美・加藤秀一・赤石千衣
子編著)の『ジ
ェンター』の危
機を超える」



政治介入で連帯、「思わぬ収穫」

(青弓社)は、国分寺市事件
をきっかけに研究者、教育・
行政関係者、アクティビスト
が一堂に会した熱気あふれる
シンポジウムの記録。

宮台真司さん・上野らの「バ
ックラッシュ」(双風社)
の執筆者は草手のネットエー
ザー、ブロガー(ブログの書
き手)の世代が中心。バック
ラッシュ派の分析をもとに、
弱点を衝く。

加藤秀一さんの『ジェン
ター入門』(朝日新聞社は知ら
ないと恥ずかしいジェンタ
ー論の基本からいねいに説
く。批判するなら勉強してか
ら出直してきてもらいたい。
そのためにはつてつづの入
門書だ。

沼崎一郎さんの『ジェン
ター論の教える方ガイド』(フエ
ミックス)は、性暴力被害者予
備軍と女子大生への愛にあ
ふれた実践ガイドだ。「避妊な
きセックス」は性暴力だと
か、男性学が生んださまざまな
卓見に満ちている。

◆
「ジェンター」は国際的に確
立した学術用語。これを不使
用にすれば日本は世界の笑い
ものになると、日本学術会議
でも会員のあいだに危機感が
拡がり、学術とジェンター委
員会の対外報道書「提言：ジ
ェンター視点が拓く学術と社
会の未来」(<http://www.scj.go.jp/JA/info/kohyo/pdf/kohyo-20-t29.pdf>)が出た。コ
ンバクトだが密度の濃い、第
一線の研究者による学際的な
アプローチの成果。

あとになってふりかえれ
ば、バックラッシュのおかげ
で二〇〇六年はジェンター論
刊行の当たり年だったと言
えるだろう。予期せぬ効果と
いつべきか。

(東大教授)

上野千鶴子

ジェンダー論当たり年に

東大教授 上野千鶴子

今年は安倍政権が成立し、県議会で男女共同参画セン
タリで、「ジェンダーフ
タリ」のみならず「ジェン
ダー」までが政治的争点と
なった奇妙な一年だった。

一月には、東京都国分寺
市の人権講座の講師に上野
が候補となったことに、東
京都が「ジェンダーフリー
という言葉を使うかも」と
介入して、企画が中止にな
ったことが発

覚、広範な抗議
の運動が起き
た。

三月には千葉

「後戻り」への危機感で連帯

いるのに、後戻りしてもら
っては困る。

ブロガーも分析

バックラッシュのおかげ

で、ジェンダー関係者の連
帯が強まったの思いがけ
ない成果。そのなかから収
穫と言えるものをいくつか。

若菜みどりさんたち(皆



うえの・ちづこさん
1948年富山県生まれ。京大大学院博士課程修了。社会学専攻。京都精華大助教授などを経て東大教授。北杜市内に仕事場がある。著書に「近代家族の成立と終焉」など。

あとになってふりかえれば、バックラッシュのおかげで二〇〇六年はジェンダー論刊行の当たり年だった、と言えるだろう。予期せぬ効果というべきか。

てもらいたい。そのためにはうってつけの入門書だ。

沼崎一郎さんの「ジェンダー論の教え方ガイド」(フェミックス)は、性暴力被害者予備軍と女子大生への愛にあふれた実践ガイドだ。「避妊なきセックス」は性暴力だ、とか、男性学が生んださまざまな卓見に満ちている。

世界の笑い者

「ジェンダー」は国際的に確立した学術用語、これを不使用にすれば日本は世界の笑いものになる

と、日本学術会議でも会員のあ

いだに危機感が拡(ひろ)がり、学術とジェンダー委員会の対外報告書「提言：ジェンダー視点が拓く学術と社会の未来」(http://www.scj.go.jp/JA/info/kohyo/pdf/kohyo-20-129.pdf)が出た。コンパクトだが密度の濃い、第一線の研究者による学際的なアプローチの成果。

あとになってふりかえれば、バックラッシュのおかげで二〇〇六年はジェンダー論刊行の当たり年だった、と言えるだろう。予期せぬ効果というべきか。



ジェンダーをめぐる出版や研究が相次いだ

月刊 学術の動向

日本学術会議
SCJフォーラム

[HOME](#) ▶ [学術の動向](#) ▶ 2006年11月号

[ご購入方法](#) >>

学術の動向 2006年11.

[バックナンバー](#) >>

<< [前月号](#)

[次月号](#) >>

特集

日本学術会議の新体制

—日本学術会議第149回総会—

総会日程表  26KB

会長就任挨拶 / 金澤一郎

副会長就任挨拶 / 浅島 誠・鈴木興太郎・土居
範久  38KB

日本学術会議第149回総会 / 科学者の行動規
範を策定

/ 新生日本学術会議 1年目の活動報告  122KB



学術の動向 2006年11月号

特集

ジェンダー学と生物学の対話

はじめに / 後藤俊夫・浅倉むつ子  66KB

男女共同参画の実現と学術の役割 / 原 ひろ子  44KB

ジェンダー概念の意義と効果 / 上野千鶴子  47KB

女と男はどちらがうのか？

—生物学的視点からのアプローチ— / 東村博子  40KB

性差医療の考え方と課題

—老年医学の立場から— / 大内尉義  46KB

ジェンダー研究からみた体育・スポーツの可能性と課題 / 井谷恵子  44KB

体力の性差を踏まえた運動・スポーツ / 加賀谷淳子  27KB

養育と乳幼児の発達:ジェンダー学との関連 / 黒田公美  27KB

- 性差の堤喻化からの脱却にむけて / 竹村和子 
- 性差の究極要因の研究 / 長谷川眞理子  24KB
- 性差に基づいた女性医療・女性外来 / 松田昌子  26KB
- 質疑討論における主要な論点 / 江原由美子  34KB
- 公開講演会の成果と今後の展望 / 辻村みよ子  41KB

学術からの発信

- 歴史学は世界をめざして / 樺山紘一

学術の今日と明日

- 「研究者」というプレイヤー / 鷲田清一

学術の周辺

- 表紙の顔
平塚らいてう / 米田佐代子
- 私が研究者になるまで
素朴な疑問から宇宙創生の研究へ / 佐藤勝彦
- 科学と社会
食の安全と安心の遠い距離 / 唐木英明
- 誌上科学史博物館
日本における近代物理学の受容と訳語選定 / 中村邦光
- 国際派遣報告
国際天文学連合(IAU)第26回総会と惑星の定義 / 海部宣男
- 科学者の主張
今こそメディカルスクールを議論しよう / 荒川正昭

総合科学技術会議の動き

- 公的研究費の不正使用等の防止に関する取組について / 総合科学技術
会議事務局

学術会議日録

8 総合科学技術会議報告

1 本会議

* 第70回

10月29日

- (1) 平成20年度概算要求における科学技術関係施策の優先度判定等について
- (2) 研究開発独立行政法人の在り方について
- (3) 最近の科学技術の動向

2 専門調査会

* 第46回 生命倫理専門調査会

海外における生命倫理の現状

- (1) 初期のヒト胚の研究利用に関するカトリック《人格主義》生命倫理学
受精時からの人間の尊厳と基本的人権の保護
(富山大学経済学部 秋葉悦子先生)
- (2) 国際機関での生命倫理を巡る動き
ユネスコ「生命倫理と人権に関する世界宣言」と「同意」に関する報告
(国立循環器病センター研究所 森崎隆幸先生)

* 第69回 評価専門調査会

11月5日

- (1) 平成19年度における大規模研究開発の事前評価について

3 総合科学技術会議有識者議員会合

- | | |
|---------|--------|
| ・10月11日 | |
| ・10月18日 | * 会長出席 |
| ・10月25日 | * 会長出席 |
| ・11月 8日 | |
| ・11月22日 | * 会長出席 |

第 3 慶弔

平成 19 年度 秋の文化功労者

文化功労者			
桜井 英樹	(東北大名誉教授)	第 1 7 期	第四部会員
国武 豊喜	(九州大名誉教授)	第 1 9 期	第五部会員
岩槻 邦男	(東大名誉教授)	第 2 0 期	連携会員
辛島 昇	(東大名誉教授)	第 2 0 期	連携会員

平成 19 年度 秋の褒章受章者

紫綬褒章			
進士 五十八	(東京農業大教授)	第 2 0 期	第三部会員
入江 正浩	(九州大名誉教授)	第 2 0 期	連携会員
春日 雅人	(神戸大教授)	第 2 0 期	連携会員
佐和 隆光	(京都大名誉教授)	第 2 0 期	連携会員
松本 紘	(京都大名誉教授)	第 2 0 期	連携会員

平成 1 9 年度 秋の叙勲受章者

瑞宝章			
金子 敏郎	(千葉大学名誉教授)	第 1 8 期	第七部会員
本田 和子	(元お茶の水女子大学長)	第 1 9 期	第一部会員
松田 一郎	(熊本大学名誉教授)	第 1 9 期	第七部会員

逝 去

杉山 幸男 (名古屋大学名誉教授)	第 10 期 (第五部)	会員
---------------------	----------------	----

審 議 事 項

(対外報告)

- 提案 7 「わが国食料生産における資源循環型畜産技術の開発と地域活性化」 P . 1
提案 8 「渇水対策・沙漠化防止に向けた人工降雨法の推進」 P . 2

(規則等の改正)

- 提案 9 日本学術会議会則の一部を改正する規則案 P . 3
提案 10 外国人会友 (仮称) 制度検討委員会設置要綱案 P . 7

(団体の指定)

- 提案 11 日本学術会議協力学術研究団体の指定 P . 9
提案 12 学術刊行物の審査 P . 10

(国際会議関係)

- 提案 13 平成 19 年度代表派遣 (12 ~ 3 月) P . 11

(シンポジウム等)

- 提案 14 「東南アジアの民主主義と信頼」 (シンポジウム) P . 13
提案 15 「新しい環境共生都市像を求めて - 生命の多様性をも守り続ける新しい P . 14
都市づくり - 」 (シンポジウム)
提案 16 「天文学・宇宙物理学の展望 - 長期計画の策定に向けて - 」 P . 16
(シンポジウム)
提案 17 「科学技術リテラシー向上へのチャレンジ - 学校と社会の新しい連携 - 」 P . 17
(シンポジウム)
提案 18 「21 世紀、科学とどう向き合っていくか (仮題) 」 (シンポジウム) P . 19
提案 19 日本学術会議九州・沖縄地区会議公開学術講演会 P . 21
提案 20 「鉱物資源の持続可能性と資源問題への展望」 P . 22
(日本学術会議主催公開講演会)
提案 21 「ゲノムから心まで : 心の先端研究拠点への展望」 (シンポジウム) P . 24
提案 22 「宇宙と生命、そして人間を考える - - 人類の未来のために」 P . 26
(日本学術会議主催公開講演会)
提案 23 「自然共生型流域圏の構築と都市・地域環境の再生に向けて」 P . 28
(シンポジウム)

(後援)

- 提案 24 国内会議の後援 P . 30

7	
幹事会	4 6

提 案

対 外 報 告

「わが国食料生産における資源循環型畜産技術の開発と地域活性化」

- 1．提案者 生産農学委員会委員長
- 2．議 案 標記について下記のとおり承認すること。
- 3．提案理由 生産農学委員会畜産学分科会における对外報告を別添のとおり取りまとめたので、これを外部に公表したいため。

記

日本学術会議会則第二条第三号の
「对外報告」として取り扱うこと

8	
幹事会	4 6

提 案

対 外 報 告

「渇水対策・沙漠化防止に向けた人工降雨法の推進」

- 1．提案者 農学基礎委員会委員長
- 2．議 案 標記について下記のとおり承認すること。
- 3．提案理由 農学基礎委員会農業生産環境工学分科会における对外報告を
別添のとおり取りまとめたので、これを外部に公表したいため。

記

日本学術会議会則第二条第三号の
「对外報告」として取り扱うこと

9	
幹事会	4 6

提 案

日本学術会議会則の一部を改正する規則案

- 1 提 案 者 科学と社会委員会委員長
- 2 議 案 標記について、別紙案のとおり総会に提案すること。
- 3 提案理由 意思の表出について種類の名称を変更する必要があるため。

。日本学術会議規則第 号

日本学術会議法（昭和二十三年法律第二百一十一号）第二十八条の規定に基づき、日本学術会議会則の一部を改正する規則を次のように定める。

平成二十年 月 日

日本学術会議会長 金澤 一郎

日本学術会議会則の一部を改正する規則案

日本学術会議会則（平成十七年日本学術会議規則第三号）の一部を次のように改正する。
第二条中第三号を第四号とし、第四号を第五号とし、第二号の次に次の一号を加える。

三 提言

別表中声明の項の次に次のように加える。

提言	部、委員会又は分科会	法第五条各号に掲げる事項に関し、審議の結果、意見等を発表すること。
----	------------	-----------------------------------

附 則

この規則は、公布の日から施行する。

日本学術会議会則の一部を改正する規則案新旧対照条文

。 日本学術会議会則（平成十七年日本学術会議規則第三号）

（傍線の部分は改正部分）

改	正	案	現	行																																	
（意思の表出） 第二条 学術会議は、日本学術会議法（以下「法」といづ。）第四条に定める諮問に対する答申及び法第五条に定める勧告のほか、法第三条第一号の職務として、次に掲げる意思の表出をすることとし、その表出主体及び定義は別表のとおりとする。 一 要望 二 声明 三 提言 四 対外報告 五 回答 別表 <table><tr><th>種類</th><th>表出主体</th><th>定義</th></tr><tr><td>要望</td><td>学術会議</td><td>法第五条各号に掲げる事項に関し、政府及び関係機関等の実現を望む意思表示をすること。</td></tr><tr><td>声明</td><td>学術会議</td><td>法第五条各号に掲げる事項のうち、学術会議の目的を遂行するために特に必要と考えられる事項について、意見等を発表すること。</td></tr><tr><td>提言</td><td>部、委員会又は分科会</td><td>法第五条各号に掲げる事項に関し、審議の結果、意見等を発表すること。</td></tr><tr><td>対外報告</td><td>部、委員会又は分科会</td><td>法第五条各号に掲げる事項に関し、審議の結果を発表すること（意見等の発表を含む。）。</td></tr><tr><td>回答</td><td>学術会議</td><td>関係機関からの審議依頼（法第四条の諮問を除く。）事項に対し、回答すること。</td></tr></table>			種類	表出主体	定義	要望	学術会議	法第五条各号に掲げる事項に関し、政府及び関係機関等の実現を望む意思表示をすること。	声明	学術会議	法第五条各号に掲げる事項のうち、学術会議の目的を遂行するために特に必要と考えられる事項について、意見等を発表すること。	提言	部、委員会又は分科会	法第五条各号に掲げる事項に関し、審議の結果、意見等を発表すること。	対外報告	部、委員会又は分科会	法第五条各号に掲げる事項に関し、審議の結果を発表すること（意見等の発表を含む。）。	回答	学術会議	関係機関からの審議依頼（法第四条の諮問を除く。）事項に対し、回答すること。	（意思の表出） 第一条 学術会議は、日本学術会議法（以下「法」といづ。）第四条に定める諮問に対する答申及び法第五条に定める勧告のほか、法第三条第一号の職務として、次に掲げる意思の表出をすることとし、その表出主体及び定義は別表のとおりとする。 一 要望 二 声明 三 対外報告 四 回答 別表 <table><tr><th>種類</th><th>表出主体</th><th>定義</th></tr><tr><td>要望</td><td>学術会議</td><td>法第五条各号に掲げる事項に関し、政府及び関係機関等の実現を望む意思表示をすること。</td></tr><tr><td>声明</td><td>学術会議</td><td>法第五条各号に掲げる事項のうち、学術会議の目的を遂行するために特に必要と考えられる事項について、意見等を発表すること。</td></tr><tr><td>対外報告</td><td>部、委員会又は分科会</td><td>法第五条各号に掲げる事項に関し、審議の結果を発表すること（意見等の発表を含む。）。</td></tr><tr><td>回答</td><td>学術会議</td><td>関係機関からの審議依頼（法第四条の諮問を除く。）事項に対し、回答すること。</td></tr></table>		種類	表出主体	定義	要望	学術会議	法第五条各号に掲げる事項に関し、政府及び関係機関等の実現を望む意思表示をすること。	声明	学術会議	法第五条各号に掲げる事項のうち、学術会議の目的を遂行するために特に必要と考えられる事項について、意見等を発表すること。	対外報告	部、委員会又は分科会	法第五条各号に掲げる事項に関し、審議の結果を発表すること（意見等の発表を含む。）。	回答	学術会議	関係機関からの審議依頼（法第四条の諮問を除く。）事項に対し、回答すること。
種類	表出主体	定義																																			
要望	学術会議	法第五条各号に掲げる事項に関し、政府及び関係機関等の実現を望む意思表示をすること。																																			
声明	学術会議	法第五条各号に掲げる事項のうち、学術会議の目的を遂行するために特に必要と考えられる事項について、意見等を発表すること。																																			
提言	部、委員会又は分科会	法第五条各号に掲げる事項に関し、審議の結果、意見等を発表すること。																																			
対外報告	部、委員会又は分科会	法第五条各号に掲げる事項に関し、審議の結果を発表すること（意見等の発表を含む。）。																																			
回答	学術会議	関係機関からの審議依頼（法第四条の諮問を除く。）事項に対し、回答すること。																																			
種類	表出主体	定義																																			
要望	学術会議	法第五条各号に掲げる事項に関し、政府及び関係機関等の実現を望む意思表示をすること。																																			
声明	学術会議	法第五条各号に掲げる事項のうち、学術会議の目的を遂行するために特に必要と考えられる事項について、意見等を発表すること。																																			
対外報告	部、委員会又は分科会	法第五条各号に掲げる事項に関し、審議の結果を発表すること（意見等の発表を含む。）。																																			
回答	学術会議	関係機関からの審議依頼（法第四条の諮問を除く。）事項に対し、回答すること。																																			

1 0	
幹事会	4 6

提 案

外国人会友（仮称）制度検討委員会設置要綱案

- 1 提 案 者 会長
- 2 議 案 標記について、別紙案のとおり決定すること。
- 3 提案理由 外国人会友（仮称）の制度について検討を行うに当たり、外国人会友（仮称）制度検討委員会設置要綱を決定する必要があるため。

外国人会友（仮称）制度検討委員会設置要綱（案）

〔平成 19 年 月 日〕
日本学術会議第 回幹事会決定

（設置）

第 1 外国人会友（仮称）制度検討委員会（以下「委員会」という。）は、日本学術会議会則第 25 条に基づく委員会として幹事会に附置する。

（組織）

第 2 委員会は、会長、副会長及び各部の役員 1 名をもって組織する。

（任務）

第 3 外国人会友（仮称）制度に関する事項を審議する。

（設置期限）

第 4 委員会は、平成 20 年 9 月 30 日まで置かれるものとする。

（庶務）

第 5 委員会の庶務は、事務局企画課において処理する。

（雑則）

第 6 この要綱に定めるもののほか、議事の手続その他委員会の運営に関し必要な事項は、委員会が定める。

附 則

この決定は、決定の日から施行する。

1 1	
幹事会	4 6

提 案

日本学術会議協力学術研究団体の指定

1. 提 案 者 会 長
2. 議 案 日本学術会議協力学術研究団体の審査結果を回答すること
3. 提 案 理 由 日本学術会議協力学術研究団体への新規申し込みのあった団体について、科学者委員会の意見に基づき、下記のとおり回答することとしたい。

記

- 指定することを適当と認める。
 - (申請団体名)
 - 日本語用論学会
 - 政策情報学会
 - 日本発育発達学会
 - 日本植物形態学会
 - パワーエレクトロニクス学会
 - 日本化学連合
 - 室内環境学会
 - 日本環境毒性学会
 - 日本景観学会
 - 情報システム学会
 - 全国大学音楽教育学会
 - 特定非営利活動法人 産学連携学会
 - 大学評価学会
 - 地域研究コンソーシアム
 - 日本看護系学会協議会
- 指定することを適当と認めない。
 - (申請団体名)
 - 日本トランスパーソナル学会
 - 新潟医療福祉学会

1 2	
幹事会	4 6

提 案

学術刊行物の審査

1. 提 案 者 会 長
2. 議 案 学術刊行物の審査結果を回答すること
3. 提 案 理 由 日本郵政公社（当時）各支社長から照会のあった標記について、科学者委員会の意見に基づき、下記のとおり回答することとしたい。

記

- 学術刊行物に指定することが適当である。

（題 号）

（申 請 団 体）

文化資源学

文化資源学会

日本雪工学会誌

日本雪工学会

日本風工学会誌

日本風工学会

日本循環器看護学会誌

日本循環器看護学会

J A C E T 関西紀要

大学英語教育学会（J A C E T）関西支部

1 3	
幹事会	4 6

提 案

平成 1 9 年度代表派遣（12～3 月）

- 1 提 案 者 会 長
- 2 議 案 標記について、別紙のとおり実施すること。
- 3 提案理由 「日本学術会議の行う国際学術交流事業の実施に関する内規」第 19 条の規定に基づくものである。

<参考> 「日本学術会議の行う国際学術交流事業の実施に関する内規」(抄)

(派遣者の選考)

第 1 9 条 会長及び関係委員長は、幹事会で承認された派遣実施計画に基づき、代表を派遣すべき会議等（以下「代表派遣会議」という。）のそれぞれの内容等に応じて、学術会議会員（以下「会員」という。）の中から適任者を選考し、様式第 7 に定める代表派遣会議候補者推薦書により派遣候補者を会長に推薦するものとする。ただし、学術会議連携会員（以下「連携会員」という。）の中に適任者があると認められる場合は、その者を候補者として推薦することができる。

- 2 会長は、前項の規定により推薦された派遣候補者について、原則として代表派遣会議が開始される日の 1 か月前までに開かれる幹事会の議決を経た上、学術会議の代表として派遣される者（以下「派遣者」という。）として派遣するものとする。

番号	国際会議等	会 期		開催地及び用務地	派遣候補者 (職名)	備考
			計			
1	国際医学団体協議会執行委員会及び第21回総会	12月3日 ～ 12月4日	3 日	ジュネーブ _____ スイス	松田 一郎 連携会員 北海道医療大学学長	CIOMS分科会 第1区分
2	第16回IUPAB国際会議/第17回IUPAB総会	2月1日 ～ 2月7日	7 日	ロングビーチ _____ 米国	永山 国昭 連携会員 大学共同利用機関法人自然科学研究機構岡崎統合バイオサイエンスセンター教授	IUPAB分科会 第1区分
3	地球科学国際研究計画(IGCP)第36回地質科学国際研究計画(IGCP本部理事会)	2月14日 ～ 2月15日	2 日	パリ _____ フランス	波田 重熙 特任連携会員 神戸女子大学 文学部教育学科	地球惑星科学委員会国際対応分科会 特別派遣
4	国際地質科学連合(IUGS)理事会	3月16日 ～ 3月25日	10 日	マラケシ _____ モロッコ	松本 良 連携会員 東京大学大学院理学系研究科 教授	地球惑星科学委員会IUGS分科会 第2区分
5	国際北極科学委員会(IASC)評議会	3月26日 ～ 4月2日	8 日	サレハルド _____ ロシア	神田 啓史 特任連携会員 国立極地研究所 北極観測センター長・教授	地球惑星科学委員会国際対応分科会 第2区分

14	
幹事会	46

提 案

公開シンポジウム「東南アジアの民主主義と信頼」の開催

- 1 提案者 政治学委員会委員長
- 2 議 案 標記シンポジウムを下記の通り開催すること。

記

- 1 主 催 政治学委員会民主主義と信頼分科会
- 2 日 時 平成 19 年 12 月 13 日（木） 15：30～17：00
- 3 会 場 東京大学本郷キャンパス山上会館大会議室
（東京都文京区本郷 7 - 3 - 1）

4 プログラム

開催趣旨：東南アジアの民主主義は 1990 年代に大きな民主化への歩みを示したが、2000 年代に入って、若干の後退をみせている。タイの軍事クーデター、ミャンマーの仏教徒抗議抑圧、イスラム過激勢力によるテロおよび抑圧など、東南アジアの民主主義そしてその基礎の一つを構成する信頼（対人的信頼と社会制度に対する信頼）をミャンマーとタイの専門家による世論調査データの分析を行う。

開会あいさつ：猪口孝（中央大学、日本学術会議会員）

講 演（15：30～16：30）

- 1) ミャット・テイン（ヤンゴン大学）
- 2) アーロン・スターン（米国連邦政府国際開発庁）
- 3) 猪口孝・三上了（中央大学）

討論など（16：30～17：00）

- 1) 猪口邦子（衆議院議員、日本学術会議会員）
- 2) 田中明彦（東京大学、日本学術会議連携会員）
- 3) 廣瀬和子（上智大学、日本学術会議会員）

閉会あいさつ：廣瀬和子（上智大学、日本学術会議会員）

1 5	
幹事会	46

提 案

公開シンポジウム

「新しい環境共生都市像を求めて

—生命の多様性をも守り続ける新しい都市像づくり—」の開催

- 1 提 案 者 地域研究委員会委員長
- 2 議 案 標記シンポジウムを下記の通り開催すること。

記

- 1 主 催 日本学術会議地域研究委員会・環境学委員会・地球惑星科学委員会合同 IHDP 分科会、千葉商科大学大学院政策情報研究科、日本環境共生学会、日本地域学会、資産評価政策学会
- 2 後 援 千葉商科大学政策情報学部、市川市（交渉中）、市川商工会議所（交渉中）
- 3 日 時 平成19年12月22日（土）13：30～17：30
- 4 場 所 千葉商科大学 図書館5階会議室（千葉県市川市国府台 1-3-1）
- 5 分科会の開催 同会場にて開催予定
- 6 次 第

開催趣旨

IHDP 科会は昨年度千葉商科大学で行ったシンポジウムの成果から内閣府の「イノベーション 25 委員会」（委員長・黒川清前日本学術会議会長）にポスト京都プロトコルの国際的な環境政策の合意を促進する 4 つの提言を行った実績を持つ。その活動の延長として 2007 年 9 月 27 日～9 月 30 日に名古屋大学で開催された日本学術会議と日本環境共生学会が共催した第 17 回 AASSREC 隔年総会で環境政策とそれを支える環境研究を主題とするプログラムの形成と運営に貢献し、最終日には IHDP セッションを持ったところである。

これまでの IHDP の環境政策を論じる活動を通じ、しばしば言及されつつも、真の持続的可能な成長（Sustainable development）を実現しうる低エミッションの都市像については十分に焦点をあてた議論の場がなく、新しい都市像づくりは満足すべき水準にまで到達していない。そこで AASSREC のアフターケアとして日中韓台米の 5 カ国の研究者による議論を通じ、新しい都市像を求め、それを実現する環境共生の公共選択の方法を導く試みをし、日本学術会議の基本方針にすえられている。

「Science for Society」を満たすアウトリーチ活動とするため関係団体を通じ、一般の市民参画を求める「公開シンポジウム」とする。

総合司会：松本泰子（京都大学准教授・IHDP 分科会委員）

講演

- 1) 主題解説「低エミッション都市像づくりの重要性」
熊田禎宣（千葉商科大学教授・日本環境共生学会会長・日本学術会議 IHDP 分科会委員長）
- 2) 基調講演「日本の環境先進国としての国際戦略」
小池百合子（衆議院議員・元環境省大臣）
- 3) 学術講演「日本の環境研究と国際協働（仮）」
進士五十八（東京農業大学教授・日本学術会議環境学委員会委員長）（交渉中）

パネル討論

座長 氷鮑揚四郎（筑波大学教授・日本学術会議 IHDP 分科会委員）
山本佳世子（電気通信大学准教授・IHDP 分科会委員）

パネリスト

日本：山形与志樹（国立環境研究所地球環境研究センター主席研究員・IHDP 分科会委員）
岡本耕平（名古屋大学教授・IHDP 分科会委員）
中国：王郁（上海交通大学教授）（交渉中）
韓国：金相奉（高麗大学准教授）
台湾：汪宏倫（中央研究社会学研究副研究員・国立台湾大学社会学系兼任副教授）（交渉中）
米国：スチュアート・ヒーリー（金沢大学大学院社会環境科学研究科博士課程）（交渉中）

総括

古市 徹（北海道大学教授・IHDP 分科会委員）
中川 雅之（日本大学教授・IHDP 分科会委員）

閉会あいさつ：廣松 毅（東京大学教授、IHDP 分科会委員）

1 6	
幹事会	4 6

シンポジウム「天文学・宇宙物理学の展望 - 長期計画の策定へ向けて - 」の開催

- 1 提案者 物理学委員会委員長
- 2 議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること

記

- 1 主 催 物理学委員会 天文学・宇宙物理学分科会
- 2 日 時 平成19年12月28日(金) 9:30～18:30
- 3 場 所 日本学術会議講堂
- 4 次 第

開催趣旨

第20期天文学・宇宙物理学委員会では、関連分野のコミュニティとともに20年を見通した天文学・宇宙物理学の動向の議論と長期計画の策定のための活動が続いている。今回の公開講演会では、これからの天文学・宇宙物理学がどのように展開していくのか、気鋭の若手研究者を講演者に招いてビジョンを提示してもらうとともに、公開討論を通じて今後の長期計画に向けたコミュニティ及びその周辺の共通理解を深めることを目的とする。

開会あいさつと基調講演：海部宣男（放送大学大学教授、日本学術会議会員）

講 演（10:00～17:00）

- 1) 小松英一郎（テキサス大学准教授）
- 2) 山田亨（東北大学教授）
- 3) 上田佳宏（京都大学准教授）
- 4) 田村元秀（国立天文台准教授）
- 5) 中村正人（JAXA教授）
- 6) 関井隆（国立天文台准教授）
- 7) 戸谷友則（京都大准教授）
- 8) 安東正樹（東京大学助教）
- 9) 森山茂栄（東京大学准教授）

討論など（17:00～18:30）

まとめと閉会あいさつ：佐藤勝彦（東京大学教授、日本学術会議会員）

17	
幹事会	46

シンポジウム「科学技術リテラシー向上へのチャレンジ
— 学校と社会の新しい連携 —」の開催

1. 提案者 科学と社会委員会委員長
2. 議案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること。

記

- 1 主催 科学と社会委員会科学力増進分科会
「市民による科学技術リテラシー向上維持のための基礎研究」プロジェクト（代表者 滝川洋二：NPO 法人ガリレオ工房 / （財）日本科学技術振興財団・科学技術館 / NPO 法人理科カリキュラムを考える会）
- 2 共催 東京理科大学大学院理学研究科理数教育専攻、東京大学教養学部附属教養教育開発機構（予定）
- 3 後援（予定） 文部科学省 経済産業省 日本物理学会
- 4 日時 平成20年1月13日（日）10時 18時、14日（月 / 祝）9時 17時
- 5 会場 東京理科大学神楽坂校舎 6 号館（東京都新宿区神楽坂1-3）

6 次第

ＪＳＴ研究開発プログラム「21世紀の科学技術リテラシー」に採択された「市民による科学技術リテラシー向上維持のための基礎研究」（平成17-19年度）成果発表のシンポジウムとして企画する。この基礎研究の代表者滝川洋二東大教授は、「科学技術の智」プロジェクトとの企画推進会議委員でもあり、この基礎研究の成果は、今後「科学技術の智」プロジェクトの定着化にむけて、活かされていくものである。このシンポジウムでは、基礎研究の成果を共有して、今後の科学技術リテラシー定着化に向けた戦略について、討論を行うことを目的とする。

○講演（予定）

- ・有馬朗人（科学技術館館長 武蔵大学学長 元文部大臣 元科学技術庁長官）
- ・「学習指導要領改訂の方向」
清原洋一（文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官）
- ・「科学リテラシー構築と社会のデザイン」北原和夫（ＩＣＵ教授、日本学術会議）

- ・「世界の理科教科書と日本の比較」
石渡正志（NPO法人理科カリキュラムを考える会理事）
- シンポジウム「理科支援員・特別支援員の初年度」
 - ・文部科学省科学技術政策局基盤政策課に依頼中「スタートした理科支援員制度」
 - ・経済産業省経済産業政策局産業人材参事官室に依頼中「特別支援員初年度の成果」
 - ・千葉県教育委員会、富山県教育委員会、新潟県教育委員会などの理科支援員への取り組み
 - ・企業における特別支援員への取り組み
- パネルディスカッション
 - ・「科学でまちづくり」
 - ・「科学ボランティアの現状＋科学 Web の現状」
- ポスターセッション

提 案

シンポジウム「21 世紀、科学とどう向き合っていくか（仮題）」の開催

- 1．提案者 日本学術会議副会長 浅島誠
- 2．議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること

記

- 1．主 催 日本学術会議、科学技術振興機構、日本学術振興会、製品評価技術基盤機構、生物科学学会連合、日本医学会、日本工学会、日本化学会、応用物理学会、日本機械学会、日本物理学会、日本農学会、日本薬学会（調整中を含む）

- 2．日 時 平成20年1月16日(水) 13:30～17:30

- 3．会 場 日本学術会議 講堂（予定）

4．概 要（案）

（1）開催趣旨

科学・技術の目覚ましい進展のなかで、その高度化・複雑化の度はいっそう増している。そしてそうした先進の科学・技術の成果は直ちに人々の生活に浸透し、日常生活での依存度も年々高まってきている。このような背景の下、人々が科学の真実と限界を正しく理解し、科学とどのように付き合えばよいのかを問う姿勢は極めて重要である。

最近、科学的に効果が必ずしも証明されていないにもかかわらず、「科学的」に「正しい」もしくは「効果がある」などと、あたかも科学的であることを装ったような言動や、商品が目につくことが多い。このように、「科学的根拠はないが、科学的であると装ったもの」は、一般に疑似科学（二セ科学、似非科学とも言われる）と呼ばれ、しばしば社会的問題として顕在化するようになってきた。疑似科学が問題となる社会的要因としては、人々の生活における科学・技術に対する依存度の高まりのほかに、人々の不安や自己責任が求められる風潮に伴う「科学的であること」への依存心、さらには科学的・論理的思考の衰退傾向などが挙げられる。こうした疑似科学の蔓延は、健康問題などの真のリスクの見過ごし、消費者の無意味なものへの浪費、科学教育に対する悪影響などとの関連で懸念される。

一方、最先端の科学・技術の研究においては、新しいアイデアや試みから、その体系が確立されるまでの間の、いわゆるグレーゾーンの存在は不可避である。このような発展途上の研究領域においては、科学的不確実性に対して、一義的に「非科学である」と決めてしまう態度（疑似科学として扱うこと）や、専門分野の細分化に伴い、異分野の考えを排除してしまう態度は、科学・技術の進歩を妨げてしまう恐れがある。逆に、科学的不確実性を持つ研究成果が極端に拡大解釈または単純化されて、疑似科学的に悪用されることもあり、それもまた科学・技術の進歩を妨げることにつながりかねない。

本シンポジウムは、このような状況において、科学者、技術者、メディア関係者、教育者が、それぞれの立場でどのような対応をするべきかについて意見を述べ、様々

なセクターの関与者を交えて活発に議論することを意図している。

(2) プログラム

【総合司会】 横浜国立大学 名誉教授 伊藤 卓

○開催にあたって(13 : 30 ~ 13 : 45)

【主催者挨拶候補】日本学術会議 会長 金澤 一郎

○特別講演 (13 : 45 ~)

総合科学技術会議 議員 相澤 益男

○特別講演 (14 : 15 ~)

科学技術館 館長 有馬 朗人

○休 憩 (14 : 45 ~ 15 : 00)

○パネルディスカッション(15 : 00 ~ 17 : 00)

【司会候補】サイエンスコーディネーター 古田 ゆかり

【パネリスト候補】(4 ~ 5 人)

製品評価技術基盤機構 理事長

御園生 誠

東京大学名誉教授

唐木 英明

大阪大学

菊池 誠

ジャーナリスト

辻 篤子

元総合科学技術会議議員

柘植 綾夫

NPO市民科学研究室

上田 昌文

つくば大学附属高校教諭

梶山 まさあき 他

○まとめ(17 : 00 ~ 17 : 30)

日本学術会議 副会長 浅島 誠

提 案

日本学術会議九州・沖縄地区会議 公開学術講演会の開催

- 1 提案者 科学者委員会委員長
- 2 議 案 標記講演会を下記のとおり開催すること。

記

- 1 主 催 日本学術会議九州・沖縄地区会議
- 2 日 時 平成 20 年 1 月 22 日（火）13:30～16:30
- 3 次 第

（１）開会挨拶

唐木 英明（日本学術会議第二部部長）
住吉 昭信（宮崎大学長）

（２）講 演

唐木 英明（日本学術会議第二部部長）

（３）学術講演

【地域バイオマス資源の有効活用】

「生物由来廃棄物の活用による資源循環システムについて」

杉 本 安 寛（宮崎大学農学部教授）

「培養神経細胞毒性を指標とした脳血管性認知症予防物質の農産物・魚介類中におけるスクリーニングと構造解析」

川 原 正 博（九州保健福祉大学薬学部教授）

「高機能性食品成分によるウイルス発がん予防」

片 岡 寛 章（宮崎大学医学部教授）

（４）閉会挨拶

今西 裕一郎（日本学術会議九州・沖縄地区会議代表幹事）

会場については、公募により決定

20	
幹事会	46

提 案

日本学術会議主催公開講演会「鉱物資源の持続可能性と資源問題への展望」の開催

- 1 提 案 者 科学者委員会委員長
- 2 議 案 標記講演会を下記のとおり開催すること。

記

- 1 主 催 日本学術会議
- 2 後 援 資源・素材学会、東京大学生産技術研究所、東北大学多元物質科学研究所、
(以下調整中) 経済産業省鉱物資源課、文部科学省、石油天然ガス・金属
鉱物資源機(JOGMEC)、日本鉱業協会、日本 LCA 学会、廃棄物学会、環境資
源工学会、エコマテリアル・フォーラム、産業技術総合研究所
- 3 日 時 平成 20 年 1 月 25 日(金) 13:00~18:00
- 4 会 場 東京大学本郷キャンパス小柴ホール(東京都文京区本郷 7 - 3 - 1)
- 5 趣 旨

資源の大量消費に支えられてきた現代社会は、今後続く世界人口の増加、発展途上国の経済発展にともない、ますます膨大な量の資源を必要とするであろう。特に 2003 年から現時点まで続いている資源価格の高騰は、さまざまな産業や消費者に大きな影響を与え、安定供給に対する不安を駆り立てている。このような現代の資源問題に対して確かな見解を持つためには、中長期的視点に立ち、まず資源生産の一連のフローに沿った各分野での課題を丹念に拾い上げたうえで、資源の上流から下流に至るまでを総合的に俯瞰したパースペクティブを得ることが不可欠である。

シンポジウムでは、鉱物資源を対象にこれまで持続可能なグローバル資源利活用に係る検討分科会で議論を重ねてきた資源の利用可能性についての地球科学的・工学的展望と限界を広く一般に公開し、様々な分野からの参加者と討論することで、限界を超えるために取り組むべき科学技術開発の方向性ならびにわが国の資源戦略について討議する。

6 次 第

司会：安達 毅（東京大学生産技術研究所・環境安全研究センター准教授）

13:00～13:10 開会挨拶

前田 正史（日本学術会議連携会員、東京大学生産技術研究所所長・教授）

13:10～13:40 「資源問題の課題と展望」

西山 孝（京都大学名誉教授）

13:40～14:20 「資源地質と探査の課題と展望 ～ 陸上探査と深海底探査 ～」

浦辺 徹郎（東京大学 大学院理学系研究科 教授）

14:20～15:00 「資源開発技術の課題と展望～採鉱技術のチャレンジ - マス・マイニング & コンパクト・マイニング～」

山富 二郎（東京大学 大学院工学系研究科 教授）

15:00～15:40 「資源開発における環境対策の課題と展望～坑廃水処理の技術～」

所 千晴（早稲田大学 理工学術院 講師）

（15:40～16:00 休憩）

16:00～16:40 「鉱物処理技術の課題と展望～資源の持続的供給に向けたミネラルプロセッシングの方向性～」

柴山 敦（秋田大学 工学資源学部 准教授）

16:40～17:20 「非鉄製錬技術の課題と展望」

中村 崇（日本学術会議連携会員、東北大学 多元物質科学研究所 教授）

17:20～18:00 総合討論

「資源問題への展望 ～我が国の資源戦略に何が必要か～」

討論司会：山富 二郎

討 論 者：西山 孝、浦辺 徹郎、所 千晴、柴山 敦、中村 崇

18:00 閉会

以上

2 1	
幹事会	46

提 案

シンポジウム「ゲノムから心まで：心の先端研究拠点への展望」の開催

- 1 提 案 者 心理学・教育学委員会委員長
- 2 議 案 標記シンポジウムを下記の通り開催すること。

記

- 1．主催 日本学術会議心理学・教育学委員会「心の先端研究と心理学専門教育」分科会
- 2．後援 京都大学グローバルCOE生物多様性研究拠点（A06）
京都大学グローバルCOE心が活きる教育のための国際的拠点（D07）
- 3．日時 平成20年2月2日（土）13：30から17：45
- 4．場所 京都大学百周年時計台記念館（京都市左京区吉田本町）
- 5．分科会の開催
同会場において分科会を開催予定
- 6．次第

開催趣旨

人間の体が進化の産物であるように人間の心も進化の産物である。ヒトゲノム解読に続いて、2005年にはチンパンジーゲノムやイネゲノムが解読された。人間の生物学的基盤の理解がすすむ一方で、部分に還元されないまるごと全体としての人間という存在をどのように理解するかが問われている。心の研究は、従来は心理学や認知科学の領域だったが、全体的な理解には多様な学際的なアプローチが必要だろう。そこで、ゲノム科学、比較認知科学、心理物理学、神経科学、認知ロボティクスなど、人間の心の理解につながる多様な先端研究の現状を総覧し、相互の理解を深めるとともに、将来的な共同研究および国際連携の拠点づくりを展望したい。

開会あいさつ：長谷川寿一（東京大学教授、日本学術会議会員）

講演（13：30 - 15：30）心の先端研究

- 1) 下條信輔（カリフォルニア工科大学、教授）心理物理学の研究から
- 2) 入来篤史（理化学研究所、東京医科歯科大学、教授）神経科学の研究から
- 3) 浅田稔（大阪大学大学院工学研究科、教授）認知ロボティクスの研究から

討論（１５：４５ - １７：４５）バーチャル共同研究拠点への展望

司会：長谷川壽一（東京大学）

パネリスト：今井むつみ（慶応義塾大学） 内田伸子（お茶の水女子大学） 坂上雅道（玉川大学） 実森正子（千葉大学） 積山薫（熊本大学） 辻敬一郎（名古屋大学） 西田眞也（N T T基礎研究所） 藤田和生（京都大学） 松沢哲郎（京都大学） 山岸俊男（北海道大学） 吉川左紀子（京都大学） 渡辺茂（慶応義塾大学） 渡邊正孝（東京都神経科学研究所）

閉会あいさつ：内田伸子（お茶の水女子大学教授、日本学術会議会員）

参加申込方法

* 事前申し込みは必要ありません。どなたでも参加できます。参加無料です。

問い合わせ先：京都大学霊長類研究所・総務掛、電子メールでお願いします。

電子メールあて先： kokoro2008@pri.kyoto-u.ac.jp

2 2	
幹事会	4 6

提 案

日本学術会議主催公開講演会「宇宙と生命、そして人間を考える
- 人類の未来のために - 」の開催

- 1 提 案 者 科学者委員会委員長
- 2 議 案 標記講演会を下記のとおり開催すること。

記

- 1 主 催 日本学術会議
- 2 後 援 (予定) 文部科学省、科学技術振興機構、日本学術振興会、日本医学会、
日本天文学会、日本哲学会、日本進化学会、日本神経科学学会、
日本人類遺伝学会、日本免疫学会
- 3 日 時 平成 20 年 2 月 16 日 (土) 13:00 ~ 17:40
- 4 会 場 日本学術会議講堂
- 5 趣 旨

20 世紀は戦争の世紀と言われた。

21 世紀は、国際政治の枠組みが変わり、人類全体にかかわる諸問題の比重が大きくなってきた。環境、エネルギー、気候、食料、人口など、地球規模の問題が先送りできないところまで来たとともに、形を変えた国際紛争、政治、経済、教育、医療問題などに抜本的解決策を見いだせないまま、応急処置に追われているのが現状である。

これら未解決の個別課題に対し、一つ一つ具体的な解決策を検討することはもちろん重要である。しかしながら、現代が抱えているこれらの諸問題の背景には、人類の本質がかかわっていると考えられる。すなわち、これらの諸問題は、脳の認知機能を進化させた人類が、外部の自然界も、自らの内部も、認知的に理解し、操作することのみを永年にわたって追求してきたことの、必然的結果ではないだろうか。また、解決が思う

にまかせない理由の一つも、人類の認知機能のみを重視し、それに依存しているからではないだろうか。このような認識のもとに、「そもそも人間とはなにか」という課題をめぐって、学問領域を超えるさまざまな識者の考察をもとに議論を深め、現代の人類が直面する課題解決への道を拓く基盤として、新しい哲学 ヒューマンサイエンス (integrated humanities and sciences) の創出を目指す。そして、この講演会が、今後継続的に共同の考察・思索を推進していくうえでの最初のステップとなるよう機能させたい。

6 次 第

13:00-13:10 開会挨拶

金澤 一郎 (日本学術会議会長)

13:10-13:20 イントロダクション

笹月 健彦 (国立国際医療センター総長、日本学術会議会員)

第一部・講演 (13:20-16:15)

司会 辻 篤子 (朝日新聞論説委員)

13:20-13:55 生命を生んだ宇宙の広がり

海部 宣男 (自然科学機構・国立天文台名誉教授、日本学術会議第三部部長)

13:55-14:30 原始生命から人類までの進化戦略

長谷川 眞理子 (総合研究大学院大学・葉山高等研究センター教授、日本学術会議連携会員)

14:30-15:05 脳とところを科学する

宮下 保司 (東京大学医学系研究科教授、日本学術会議会員)

15:05-15:40 免疫システムによる自己認識 ——脳への問いかけ

笹月 健彦

15:40-16:15 自己認識する動物 ——哲学から見た人間

野家 啓一 (東北大学副学長、日本学術会議会員)

(16:15-16:35 休憩)

第二部 パネルディスカッション (16:35-17:35)

司会 辻 篤子

パネリスト 海部 宣男、長谷川 眞理子、宮下 保司、笹月 健彦、野家 啓一

17:35-17:40 閉会挨拶

以上

2 3	
幹事会	4 6

シンポジウム「自然共生型流域圏の構築と都市・地域環境の再生に向けて」の開催

- 1 提案者 環境学委員会委員長
土木工学・建築学委員会委員長
- 2 議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること。

記

- 1 主 催 環境学委員会 環境政策・環境計画分科会
土木工学・建築学委員会 国土と環境分科会
- 2 後 援 国土交通省、文部科学省、環境省、農林水産省、経済産業省
(予定) (社)土木学会、(社)日本建築学会、(社)日本都市計画学会、
(社)農業農村工学会
- 3 日 時 平成 20 年 3 月 17 日 (月) 13:00 ~ 18:00
- 4 場 所 日本学術会議講堂
- 5 次 第

開催趣旨

現在、国土と環境分科会において継続的に議論が行われている「自然共生型流域圏の構築と都市・地域環境の再生」についてシンポジウムを開催し、これまでの議論の経緯を報告するとともに、関連するテーマ毎にそれぞれ専門の立場から、問題提起、現状報告、解決策へ向けての方向性などについて講演とコメントを頂き、さらに、パネルディカッションにより意見の集約を図る。

開会あいさつ：村上周三（慶応義塾大学教授、土木工学・建築学委員会委員長、日本学術会議会員）
13:00 ~ 13:05

総括講演：池田駿介（東京工業大学教授、国土と環境分科会委員長、日本学術会議会員）
「いまなぜ自然共生型流域圏の構築と都市・地域環境の再生か」
13:05 ~ 13:35

小委員会報告

(1) 自然共生型流域圏の構築小委員会：
石川幹子（東京大学教授、日本学術会議会員）
13:35 ~ 13:55

(2) 都市・地域環境の再生小委員会:

大西隆(東京大学教授、日本学術会議連携会員)

13:55 ~ 14:15

講演 発表者

論点 1 : 土地利用の誘導

14:25 ~ 14:55

小松利光 (発表)(九州大学教授、日本学術会議連携会員)

嘉門雅史 (コメンテータ)(京都大学教授、日本学術会議連携会員)

論点 2 : 地方都市の再生 :

14:55 ~ 15:25

蓑茂寿太郎 (発表)(熊本県立大学理事長、日本学術会議連携会員)

藤盛紀明 (コメンテータ)(清水建設㈱技術研究所顧問、日本学術会議連携会員)

論点 3 : ガバナンス :

15:25 ~ 15:55

進士五十八 (発表)(東京農業大学教授、日本学術会議会員)

木下勇 (コメンテータ)(千葉大学教授、日本学術会議連携会員)

論点 4 : 技術論 :

15:55 ~ 16:25

吉川勝秀 (発表)(日本大学教授、日本学術会議特任連携会員)

辻本哲郎 (コメンテータ)(名古屋大学教授、日本学術会議連携会員)

パネルディスカッション

16:25 ~ 17:55

「人と風土の新たな関係を目指して」

地域・地球環境保全という世界的な課題、人口減少社会における国土及び都市の再編という日本などいくつかの先進工業国が直面する課題にこたえつつ、活力がある地域社会を各地で実現していく視点と方策について多角的に議論し、進むべき道を導く。

- 論点報告 1 : 地域はいかにして再生されるか (政策立案の視点)

内閣府地域再生統合本部事務局長【予定】

- 論点報告 2 : 人口減少下の国土再編はどう進むのか (地域観察の視点)

三浦展 (地域観察専門家、評論家)【予定】

- 論点報告 3 : 国際交流時代の地域経済と都市の活力

山崎朗 (中央大学教授、地域経済専門家)【予定】

- 論点報告者、参加者を含めたパネル討議

大西隆 (コーディネーター)(東京大学教授、日本学術会議連携会員)

閉会あいさつ : 池田駿介 (東京工業大学教授、国土と環境分科会委員長、日本学術会議会員)

17:55 ~ 18:00

2 4	
幹事会	4 6

提 案

国内会議の後援

1 提 案 者 会 長

2 議 案 後援の依頼について回答すること。

3 提案理由 下記の会議について、後援の依頼があり、関係する部に審議付託した結果を下記のとおり回答することとしたい。

記

○ 後援する

名 称 等	申 請 者	審議 付託先
医療の質・安全学会第2回学術集会・国際シンポジウム 主催：医療の質・安全学会 会期：平成19年11月23～25日 場所：東京国際フォーラム	医療の質・安全 学会第2回学 術集会会長	第二部
日本看護系学会協議会 第8回シンポジウム：ICTを活用した看護イノベーション 主催：日本看護系学会協議会 会期：平成19年12月7日 場所：東京国際フォーラム	日本看護系学 会協議会	第二部
「スマトラ型巨大地震・津波被害の軽減策」国際シンポジウム 主催：東京大学地震研究所、産業技術総合研究所、防災 研究フォーラム、日本学術振興会 会期：平成20年1月22～24日 場所：タイ・プーケット市	東京大学地震 研究所・教授	第三部

第 28 回農業環境シンポジウム「温暖化によって何が起こり、 どう対応できるのか」 主催：農業環境技術研究所 会期：平成 20 年 2 月 1 日 場所：東京国際フォーラム	独立行政法人 農業環境技術 研究所理事長	第二部 第三部
「第 7 回日本社会福祉学会政策・理論フォーラム」 主催：日本社会福祉学会 会期：平成 20 年 3 月 16 日 場所：西九州大学	日本社会福祉 学会会長	第一部
第 45 回日本伝熱シンポジウム 主催：日本伝熱学会 会期：平成 20 年 5 月 21 ~ 23 日 場所：つくば国際会議場	第 45 回伝熱シ ンポジウム実 行委員長	第三部
日本地球惑星科学連合 2008 年大会 主催：日本地球惑星科学連合外 46 学会 会期：平成 20 年 5 月 25 ~ 30 日 場所：幕張メッセ国際会議場	日本地球惑星 科学連合代表	第三部
プラズマ理工学国際会議 2008 (ICPP2008) 主催：プラズマ・核融合学会、核融合研究所、九州大学 会期：平成 20 年 9 月 8 ~ 12 日 場所：福岡国際会議場	プラズマ理工 学 国 際 会 議 2008(ICPP200 8)組織委員長	第三部